

大阪薬科大学広報委員会

アミガサユリ

アミガサユリ (バイモ) *Fritillaria verticillata* Willd var. *thunbergii* (Miq.) Baker は中国原産の多年生草である。3～4月ごろ上部葉腋に、6弁の淡黄緑色で、外面に緑色、内面に褐紫色網目状の紋様を持つ、つり鐘様の花をうつむきに着ける。アミガサユリ (編笠百合) の名は、この花の形と網目状の模様から付けられている。またバイモ (貝母) の名は、その地下部にある鱗茎の形が、大小二個の鱗片が抱き合ったようになり、貝の形に似ていることから付けられた漢名である。この鱗茎に石灰をまぶし乾燥したものが生薬貝母(ばいも) *Fritillariae Bulbus* であり、日本産と中国産とがある。日本産貝母は「大和貝母」とも称され、奈良県で主に栽培されている。中国産は種類が多く複雑であるが、市場に出まわる主なものは川貝 (せんばい)、浙貝 (せつばい)、平貝 (へ



いばい)、生貝 (しょうばい) などがあり、川貝が上品といわれる。日本が輸入する場合は、日本産貝母と同一原植物があてられている浙貝が大部分だといわれるが、いずれにしても輸入量はわずかである。用途としては鎮咳、去痰、排膿、催乳薬として内用するほか、たむし等の皮膚病に酢をつけたものを外用する。成分としては *fritilline*, *fritillarine*, *peimine* などのステロイド型アルカロイドが知られており、*atropine* や *veratrine* と類似の作用が報告されている。



このアミガサユリの仲間では日本に自生するものとしてはコバイモ (テンガイユリ) *F. japonica* Miq., コシノコバイモ *F. japonica* Miq. var. *koidzumiana* (Ohwi) Hara et Kanai, ホソバコバイモ *F. amabilis* Koidz., クロユリ *F. camtschatscensis* (L.) Ker-Gawl がある。コバイモは山地の林や竹林の中などによく見られ、4月頃華やかなカタクリの花のそばで、ひっそりと目立たぬ花を咲かせているのを見ることがある。クロユリは日本の高山植物としては代表的なものであり、佐々成政と淀君にまつわる伝説でも有名である。本州の高山帯に見られるクロユリは2倍体 $2n=24$ で背丈が低いが、北海道から北の低地に生えるものは3倍体 $2n=36$ で丈が高く、花も沢山つける。 (小澤 貢)



新入生を迎えて

学長 堀田 輝 明

◇創立80周年 本学は明治37年日露戦争の勃発した年に、大阪の薬業の中心地、道修町の一角に開校されました。道修薬学校を出発点として、今日まで歩いて参りました。今年で丁度80年になりますので、今秋には80周年の記念式典を予定しておりますが、この長い歴史の中で、既に1万人からの薬剤師を社会に送り出して参りました。さらに、昭和50年には大学院の修士課程を、そして本年3月末には博士課程の設置が文部省によって認められましたので、いよいよ薬学研究の学府としての体制も整いました。教育・研究の両側面の完備した大学へと今後成長して行く記念すべき年に皆さんを迎えたことになります。

薬科大学は薬学を学び研究する場であると共に、薬剤師養成の社会的使命を担っている大学であります。薬学を学ぶことと薬剤師になることを別の次元のことと考える人もありますが、私は薬学教育は医学教育と同じ実学教育の最たるものであり、医学教育が医師の養成を目指すと同様に、薬学教育は薬剤師の養成を第一義としなければと思っております。薬剤師は薬大卒業生以外にはなれない特殊な医療職なので、これから薬学を勉強して貰いながら、皆さんはもっと日本の医療制度や医療技術のことにも関心を持って頂き、すぐれた薬剤師となって国民の健康保持の一翼を担い、前進させてほしいと思います。ただすぐれた薬剤師はやはり人間的にもすぐれたものであってほしいので、次の2つのことを期待します。

◇知性と感性 18世紀の哲学者カントは「内容のない思惟は空虚であり、概念のない直感は無目である」という名言のもとに、彼の認識論を展開して行きましたが、この語は人間のうちにある感性と知性の総合の上でしか

正しい認識はえられぬということでもあります。

フィーリングの時代といわれ、各人の感覚なり嗜好を大切にすあまり、価値感の相対化と共に客観的認識の道を自ら閉ざしているきらいはないでしょうか。知性を欠いた感性のみに頼る見方は、ものごとを独りよがりにはしかつまえていないことを自覚してほしいと思います。

大学はなによりも知性の府であり、人間理性への信頼の上に成り立っています。知性に輝く青年になって行って欲しいと思います。そのためには、覚えることではなくて、考えること、論理的に思惟すること、思考による整理と機軸をたえず行うことが、大学生のまず身につけねばならぬ生き方でもあります。

◇個人と全体 現代の日本は概ね豊かで、まれにみる恵まれた状況下にあると思います。このような時期にこそ、人は他人とのつながりによって自己が存在しうる体験を豊富に持ち、共同社会の中で幸福を思念して行く必要があります。個人主義は基本的に望ましい思想だと思いますが、恵まれた時代環境の中であって、社会とか集団に対する配慮を欠くとき、利己主義に陥ってしまい勝ちであります。社会とか全体を媒介にして個人を確立して行くこと、そのためには個人と全体の問題に苦しみ体験を是非学生時代に数多く持つてほしいと思います。

例えばクラブに参加して真面目に活動をやってみますと、集団と自己との葛藤の中で、集団の重みに抗して、辛うじて自己の主体性を保とうとする自分がよく見えて参りますから、クラブ活動などロスばかりと考えずに、集団の中で自分を見つめて頂きたい。協調性と主体性は現代の個人主義を支える二本柱です。利己主義と集団主義を拒否して、人格の尊厳を自ら築いて行かれることを願って止みません。

大学院博士課程の設置認められる

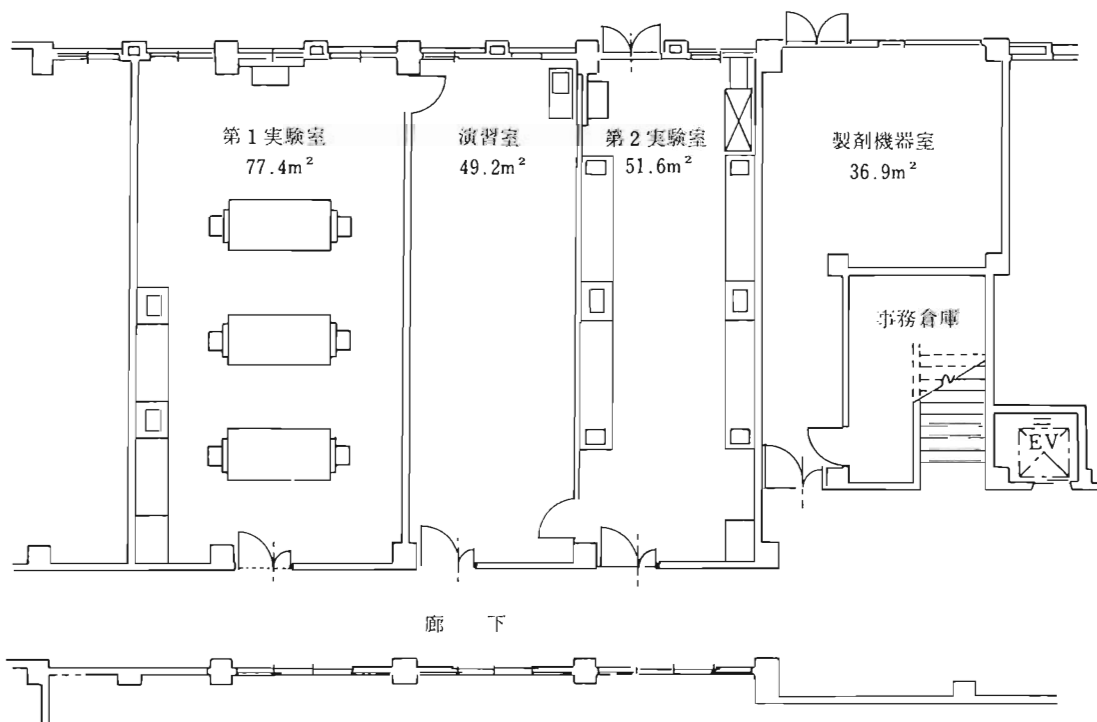
昨年11月末文部省へ、本学の大学院薬学研究科（修士課程）に新たに博士課程を開設したい旨、協議しておりましたが、文部大臣の諮問機関である大学設置審議会及び薬学専門委員会で厳しく審議された結果、去る3月19日、文部大臣より博士課程（定員5名）の設置が承認されました。

このため従来の修士課程は、博士前期課程（2年）となり、新たに博士後期課程（3年）を設けて、薬学研究を更に深め、独自のすぐれた研究を行った者には薬学博士の学位を授与する道が本学にも開かれることになりました。学生募集は本年度より行っております。

大学院実験室等改修工事の竣工について

大学院実験室等の改修工事が本年3月末をもって完了しました。下図のように、大学院関係は実験室（2室）及び演習室の計3室です。なお在来の製剤機器室は生化学（池田）研究室に、また旧食堂の厨房室が製剤機器室として、それぞれ内装を一新して発足することになりました。

（事務局）





春陽うららかに天地躍動の好季節に、薬学を志して本学に入学された諸君を心から歓迎いたします。

近年、科学技術の発展はめざましく、それとともに情報量が激増してきました。薬学の分野においても内容が豊富となり、専門が

細かく分化する結果となりました。また、一方ではますます多様化する職域で十分対応できる実力と見識を持った薬剤師の養成が求められています。そのために、大学で扱う講義の数がふえ、カリキュラムが盛りだくさんになってきました。したがって、多くの教科目から広く知識を吸収する一方、関心ある分野に深く専心することが肝要です。

本学は出席制をとっておりませんが、まず積極的に講義を受け、その上で自主性に基づく勉強をして欲しいと思います。そして、講義や自主的に学んだものの中に見られる個々の事象の解釈に対して、他の考えは成り立たないかどうか疑問を出して問題点を理解するよう心がけて頂きたいと思います。それによって、皆さんに4年間では非学んで頂きたい“学問の考え方”を身につけるこ

新 入 生

とができると思います。

本学のカリキュラムの特徴は教養課程と専門課程を明確に区別していないことでもあります。1・2回生にも専門科目が組込まれ、一般教育科目（人文・社会・自然科学）のうち、人文・社会科学系科目は1回生から3回生まで同時に開講され、自由に選択できるようになっております。また、薬剤師国家試験の関係で、主要専門科目のすべては薬学科・製薬学科のいずれにも共通の必修科目となっており、国家試験や就職試験の受験にはどちらの学科に所属していても問題はございません。また、卒業要件は修業年限4年以上で必修・選択科目あわせて136単位以上取得することであり、このような単位制の中で本学は学年制をもとり入れております。年度末にその年次に履修すべき必修科目のうち5科目以上単位未修得の場合には進級できないことになっております。

今、学問の入口に立った皆さん、常になぜと問う問題意識を持ち、科学の考え方を学び、それを時代に適合した形で応用できる力を養って下さい。そして生涯の友と出会い、“人生とは何か”を考え議論して、人間としての自己を形成していられることを期待します。

教務課だより

新入生の皆様ご入学おめでとうございます。教務課はこれから皆様が勉強する上において密接な関係にある課です。たとえば、学科履修届、試験受験届、欠席届、休学届、薬剤師国家試験、あるいは臨床検査技師国家試験等の受験に必要な諸手続、更には卒業後に必要な卒業証明書、成績証明書、各種証明書の発行等、入学から卒業までのお世話しております。従って学生便覧に記載されております学則、学科履修規程、実習に関する注意事項、学内試験に関する注意事項、あるいは台風及び交通ストの場合の授業等といった事項についてよく熟読し内容をよく把握して下さい。特に各学期の始めには学科履修届を提出しなければなりませんので忘れないようにしましょう。

新入生諸君のカリキュラムは3回生、4回生の学生とは随分変わっておりますので、充分注意を払って

下さい。なお、教務課は修学上の問題点の相談窓口で、現在教務課職員として男子3名、女子2名が在室しておりますので、どんな些細な事項でもお気軽にご相談下さい。

また、公示並びに各種連絡事項等は正門横の掲示板、教務課前の掲示板、本館西2階の掲示板、計3ヶ所の指定掲示板に掲示されますので、必ず目を通すよう心がけて下さい。

昭和59年度入学試験は2月11日(土)に行なわれ、2月18日(土)に入学試験合格発表表が行なわれた。志願者は2851名(男子1260名、女子1591名)で、4月13日(金)の入学式に薬学科114名(男子29名、女子85名)、製薬学科114名(男子49名、女子65名)の計228名の新入生が入学を許可された。

を 迎 え て

厳しかった冬も終り、みごと受験戦争を乗り越えて入学された新入生の皆さん、おめでとうございます。長い学生生活の締めくくりとして、本学を選ばれた諸君を心より歓迎いたします。

新年のひと時が「よし、今年はやろぞ！」と決心させるのと同じように、いま諸君は何かを決心し、何かに目標をたて、新たな気持ちと希望に燃えていることでしょう。

諸君は若々しい精神、情熱と体力を持って歴史の最先端に立っているといっても過言ではありません。諸君の若さの特質は、一度も失敗しないことでなく、失敗し、倒れるごとに起きあがるところにあります。考え、悩み、そして苦しんで強くなるのが、いかに崇高なことであるかを知らねばなりません。そのためにもこれから過ごされる4年間はきわめて貴重な時間です。

生命科学たけなわの現代、諸君の選ばれた薬学もその一端を担っているのはいうまでもありません。社会のニーズに答えるべく専門的知識を身につける事が要求され

ます。そのためにはまず基礎的な知識を身につける必要があります。平凡な毎日を平凡な気持ちで実行することがすなわち非凡なことであります。日々の積重ねが結果を生むのです。しかしただカチカチと勉強するだけの生活ではなく、クラブ活動などに精を出す余裕も持っていただきたく思います。学生会館、学生クラブハウスなども新築され、諸君の要求に十分に答えることが出来るものと確信しております。現在本学には全学的自治組織である学友会の傘下に、体育関係のクラブが16、文化関係のクラブが19、その他若干のサークルがあり、例年8割以上の学生がそのいずれかに所属しています。クラブ活動を通して先輩との交流が生まれ、また友人も生まれてくるでしょう。



実りある学生生活を送られますことを期待します。

学生課だより

新入生の皆さん入学おめでとうございます。学生課は学生証、在学証明書、学籍等の証明書の発行、教室、グラウンド、テニスコート等の大学施設設備等の使用申込み、課外活動に関する諸届、奨学金の申請、下宿・アルバイトの斡旋、学内での事故・傷害の処理、病院等の見学実習、就職等入学から卒業まで、学生諸君の修学上、日常生活上の事をお世話しております。どうか気安く何でも相談に来て下さい。遠慮はいりません。特に注意すべき2、3の事項につき要望しておきます。

1. 学生証は大切に

学生証は本学の学生であることを証明するものですから常に携帯し、忘れたり、紛失したりしないよう注意して下さい。すべての証明書発行の際に、また試験の時に提示を求められます。

2. 自分専用の印鑑を持つこと

諸種申請・届出手続に必要ですから、三文判でもよいから常に所持して下さい。

3. 健康保険証の写しの寄託を

講義、実習、体育実技中ならびに課外活動などでケガをした場合、初診料、初日の治療費および病院までの交通費を大学（課外活動の場合は父兄会）が負担していますが、学生は健康保険証を常時所持していないので高額の医療費を支払う結果となります。健康保険証の写しがあれば保険扱いにしてくれます。翌日保険証を持参しなければなりません。相当の費用負担の節約になりますので、保険証を学生課に提出し、その写しを学生課に寄託するようにして下さい。寮生・下宿生は「遠隔地被保険者証」を父兄の勤務先の健康保険組合か市区町村役場から発行して貰って、同様に学生課に写しを寄託するようにして下さい。

昭和58年度卒業生就職状況

昭和58年度 卒業生進路 (3月15日現在)

就職部長 酒井 清



就職ということは、人生における自己の意志を決定しなければならない重要な問題の一つである。この選択を誤るとやり直しというハンディを負い、終身雇用制の強いわが国の場合、多少の不利を免れ得ないことにもなる。

58年度は前年度に引続き厳しい就職情勢の下に迎えねばならなかった。その為就職率が低下するのではないかと案じていたが、幸いに関係各位の絶大な御助力により、3月15日現在別表の如く特殊の事情などで、目下受験中および考慮中の者を除き、大部分の新卒者の就職が決定している。求人は今後も依然として引続きあり、求職者数の数倍にも上っているので、考慮中の学生諸君も遠からず職につき、本年は就職率100%になるものと期待している。

なお、昭和59年度卒業予定者についても、日本私立大学協会などの学校11団体、関係官庁、経営者団体間の申

進路	男子	女子	計	%
会社(営業)	33	6	39	13.6
会社(開発・生産・研究)	23	52	75	26.1
病院(薬局・臨床)	12	61	73	25.4
薬局	14	12	26	9.1
公務員	2	7	9	3.1
大学職員		10	10	3.5
病院研修生	6	8	14	4.9
進学(大学院)	17	5	22	7.7
就職不希望	2	2	4	1.4
郷里で就職	1	4	5	1.7
受験中	2	2	4	1.4
考慮中	2	4	6	2.1
計(名)	114	173	287	100

合せ事項にもとずき、10月1日企業と学生との接触開始、11月1日採用選考開始という従来からの就職協定存続が確認されている。昨年後半頃から、ゆるやかな景気の回復がいわれてきているが、59年度の新卒採用、特に女子において、いまだ薬癡がゆるされない状況にあり、各方面に良質の人材が求められている今日、自己の進路について熟慮のうえ、適格な就職先を選択されることを新4回生に希望する。

新任の挨拶

教授 池田 潔



浅学非才で若輩の私を、伝統ある大阪薬科大学の教職員の一りに加えていただき、大変光栄に存じております。私の転任手続、研究室の設営等につき、諸先生ならびに事務室の各位にひとかたならずお世話になりました。厚く御礼申し上げますとともに、今後一層の御配慮と御鞭撻をお願い致します。

私はこれ迄、関西学院大学理学部、北摂道大学薬学部、大阪大学理学部に勤務して参りましたが、その間、タンパク質機能の分子論という主題のもと、主に卵白リゾチーム、ついで、蛇毒ホスホリパーゼA₂の触媒機構の研究に携わって参りました。現在では、糖および脂質の代謝全般にも興味を持っております。これ迄の手段

は、基質アナログの利用、アミノ酸残基の特異的化学修飾の他、芳香族アミノ酸残基に由来する吸収、蛍光、円偏光二色性(CD)スペクトル変化などの紫外分光学的方法でありましたが、近く本学に設置される高分解能NMR装置も活用させていただきたいと思っております。これ迄の私の研究は、酵素タンパク分子自身のいわば解剖学に終始しておりましたが、薬学の生化学部門の一員となったことを契機に、関係諸先生の御協力のもと、生理(化学)的分野にも挑戦してみたいと考えております。

学生諸氏と最も接触のある講義、実習につきましては、生化学関連科目の一部を、経験不足ながら分担させていただきます。どのような内容になるにしても、学生諸君との日々の活発な質疑応答こそが実りある結果を生むと考えます。時間の許すかぎり応対致すつもりですので、研究室の方へも気軽に討論において下さいませ。

私は、昨年の春から、京都市の北部(地下鉄北大路駅近く)に住んでおります。近くには賀茂川が流れ、植物園、上賀茂神社などがあります。私も学生時代、先生方のお宅へよく押し掛けました。休日のときなど、京都へお越しの折には、是非お立ち寄り下さい。



昭和59年度予算の概要について

事務局長 小 村 俊 夫

去る3月23日の理事会及び評議員会において、昭和59年度予算が決定いたしましたので、消費収支予算書の総括表に基いて、その概略を説明します。

消費収支予算書とは、学校法人財政の各年度における収入、支出の内容及びその均衡を明確にする目的で、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）で規定され、所定の方式で作成することになっています。

次に別表（昭和59年度消費収支予算書総括表）について勘定科目毎に、その主なる内容及び増減額の理由を説明します。

〔消費収入の部〕

学生納付金——授業料，入学金，実験実習料，設備費，

維持費を含んでおり、昭和59年度は新入学者数の抑制等を理由として、前年度比較1270万円の減

手数料——入学検定料，試験料，証明手数料を含み、入学志願者数の増により、前年度比較58万円の増

補助金——国よりの補助金（経常費補助，教育研究設備補助等）は、前年度に引続き抑制は厳しく、前年度比較1000万円の減

資産運用収入——銀行預金等の利息であり、資産の運用方法等を考慮して、前年度比較2300万円の増

事業収入——学生寮収入，公開講座収入等を含み、昭和59年度は、当初より公開講座収入を見込み、前年度比較275万円の増

消費収支予算書総括表

昭和59年4月1日から

昭和60年3月31日まで（単位円）

〔消費支出の部〕

〔消費収入の部〕

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
学生納付金	1,073,600,000	1,086,300,000	△12,700,000
手数料	53,260,000	52,680,000	580,000
補助金	340,000,000	350,000,000	△10,000,000
資産運用収入	123,000,000	100,000,000	23,000,000
事業収入	16,750,000	14,000,000	2,750,000
雑収入	27,900,000	9,450,000	18,450,000
帰属収入計	1,634,510,000	1,612,430,000	22,080,000
基本金組入額計	△294,380,000	△679,620,000	385,240,000
消費収入の部計	1,340,130,000	932,810,000	407,320,000

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
人件費	813,080,000	789,080,000	24,000,000
教育研究経費	457,130,000	374,620,000	82,510,000
管理経費	118,830,000	72,110,000	46,720,000
借入金等利息	22,970,000	24,370,000	△1,400,000
〔予備費〕	30,000,000	67,240,000	△37,240,000
消費支出の部計	1,442,010,000	1,327,420,000	114,590,000
当年度消費支出超過額	101,880,000	394,610,000	
前年度繰越消費収入超過額	192,050,000	314,640,000	
翌年度繰越消費収入超過額	90,170,000	0	
翌年度繰越消費支出超過額	0	79,970,000	

雑収入——学生募集要項，私学退職金財団交付金，その他を含み，前年度比較1845万円の増

帰属収入——学校法人の負債とならない収入で，前述の各科目の合計額16億3451万円となり，前年度比較2208万円の増

基本金組入額——固定資産，基金として保持運用する金銭，その他の資産で，これらは取得した当該年度毎に基本金として組入れることになっている。

本年度は，教育研究設備の充実を図るため，機械，器具，図書等の購入を予定しており，前年度比較3億8524万円の減

消費収入の部合計——帰属収入額から基本金組入額を控除した額13億4013万円を前年度に比較すれば，4億732万円の増となる。

〔消費支出の部〕

人件費——教職員給与，役員報酬，退職金等を含み，定期昇給，人事院勧告によるベースアップ約3%を推算して，前年度比較2400万円の増

教育研究経費——教育研究用消耗品，光熱水費，通信

費，旅費交通費，印刷製本費，修繕費及びその他の教育費等を内容とし，昭和59年度は，物価上昇見込み，また一部教育研究施設の整備を予定して，前年度比較8251万円の増

管理経費——教育研究用以外の一般経費であり，前年同様経常経費の節約に努めつつも，本年度は創立80周年記念式典挙行も予定されているので，構内環境整備，記念行事経費等を計上，前年度比較4672万円の増

借入金等利息——私学振興財団及び住宅金融公庫よりの借入金に対する利息，前年度比較140万円の減

予備費——人件費のベースアップ予想不足分を含み，前年度比較3724万円の減

消費支出の部計——以上の各科目合計14億4201万円を前年度と比較すれば1億1459万円の増

従って，当年度の消費収支は，1億188万円の支出超過となりますが，前年度繰越収入超過額1億9205万円を考慮しますと，翌年度への繰越は9017万円の収入超過の結果となります。

■研究室だより

生化学(Ⅱ)教室

教授 小 延 鑑 一



私達の教室，生化学(Ⅱ)——川野教授の生化学(Ⅰ)(2回生)に連続した教科目を担当しています——は，阪口勝亮助手，高野恭子助手と私の3名に院生の山田善也と高橋千佳の2名および昭和59

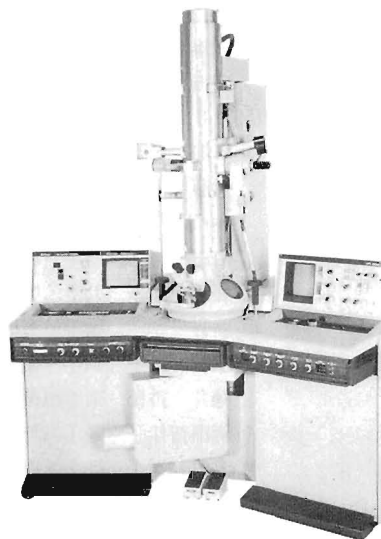
年度特別実習生の宇野秀樹，鷹野 弘，大平恭子，松本知子，宝川礼子，坪井理容，脇田多恵子の7名がおります(写真は院生2名と学生3名が不在)。研究内容は二つに分れています。一つは透析患者の血液ろ液(人工腎臓でえられるもので原尿に相当するもの)から，尿毒症性中分子と呼ばれているペプチド様物質の検出と分離する仕事，もう一つは貧血患者の血液ボルフィリンを分析する仕事であります。後者のボルフィリンはすべての生活細胞に必須のヘムの前駆体で，その異常は貧血をも含め生体への影響は大きいのですが，一方化学的には強い赤色ケイ光を発する数少ない

有機化合物であり，有機化学や物理化学としても興味ある生体分子と言えます。このように研究材料は患者からのものであるため，その量的および質的な制約は大きく，方法としてはいろいろの液体クロマトグラフィーを多用しています。材料が患者に直結していますので，病名や症状などの表面的な現象を踏まえて疾病の生化学的側面の解析を少しでもできればと地味堅実に努力しています。

研究室は手狭で機器や資材も十分ではありませんが，毎年優秀な学生諸君が張り切って実験に打ち込み，充実した最終学年を送っています。簡単ですが教室の紹介をしました。



電子顕微鏡設備



これまで本学では主に化学的な分析機器の充実が図られてきた。それらを駆使した研究には一定の成果を上げてきたようです。一方、微細形態的側面からの探究には立ち遅れがあったものの、このたび文部省からの助成もあり、本学にも念願の電子顕微鏡装置が設置されるに至りました。

薬学全般にわたって威力を発揮することと思われませんが、本学においては当面は生物系分野を中心に次のような研究対象に真価を見せることでしょう。

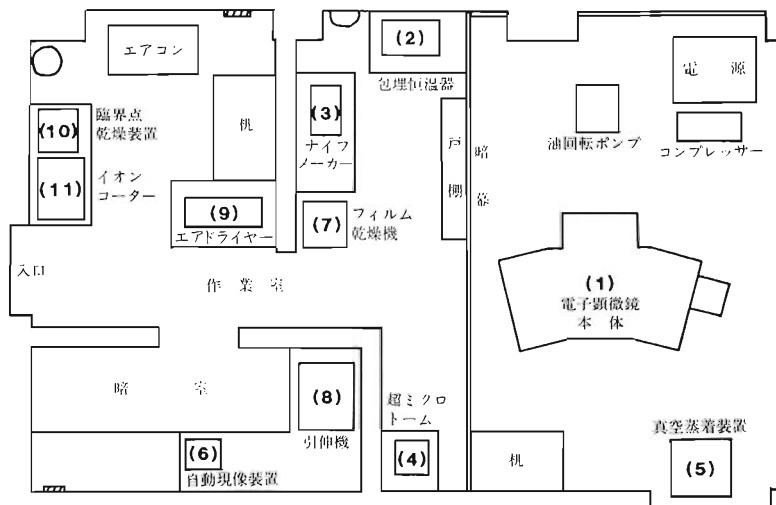
1. 分離された細胞内顆粒や細胞膜の微細構造
2. 薬物による臓器障害の電顕的検索
3. 消化管潰瘍の生成と薬物療法に関する微細形態学的検討
4. 薬物の膜透過機構の微細形態学的観察

さて、本学に設置された電子顕微鏡装置の概略を述べてみましょう。電子顕微鏡室の右半分中央部に (1) 本体(日立製H-600型)が据え付けられています。本機は最大加速電圧100KVであり、最新鋭機にふさわしくコンピューターを内蔵しており、倍率変化や焦点合わせに威力を発揮するでしょう。標準的には高分解能透過型電子顕微鏡として装備されていますが、附属されている走査電子像観察装置を組み合わせることにより、透過像に加えて走査像を得ることができます。次に本体以外の主な設備について配置図をもとに順に説明します。

試料をオスミウム酸等で固定後、エタノール等で脱水し、配置図中(2)で示される包埋恒温器を用いてエポキシ樹脂等で包埋する。あらかじめ(3)ナイフメーカーで作成したガラスナイフを装置した(4)超マイクロトームを用いて、包埋された試料から超薄切片を作成する。電子染色された超薄切片上に、(5)真空蒸着装置によりカーボン膜を蒸着する。このようにして作成した試料を(1)電子顕微鏡内に装着し、必要に応じて蛍光板で観察した像を写真に撮ります。撮影後のフィルムを(6)自動現像装置にて処理後、(7)フィルム乾燥機で乾燥する。次に(8)引き出し機にて写真を作り、現像後、(9)エアドライヤーで乾燥します。以上は、透過像電顕試料作成・観察の過程を述べましたが、走査電顕試料作成には固定・脱水後、(10)臨界点乾燥装置を用いて試料を乾燥させます。この試料に薄い金属膜をコーティングするため(11)イオンコーターにて処理し、走査像を観察します。

電子顕微鏡は、前年度末に据え付け・調整を完了したところです。これまで本学においては、電子顕微鏡への経験がなかっただけに、これから、試料の作成、像の観察と解読等の基本的な習熟から始めなければなりません。電子顕微鏡像から得られる情報を本学における教育・研究の発展に充分に活用したいものです。

(森坂勝昭・玄番宗一)



電子顕微鏡室配置図

人・事・異・動

図書館長発令 (59. 4. 1)
 森 逸男 (教授)

寮 監 発 令 (59. 4. 1)
 吉田 嶺吉 (教授)

教 授 発 令 (59. 4. 1)
 碓井 信二 (ドイツ語)
 池田 潔 (生化学 新採用)

助 手 発 令 (59. 1. 1)
 阪口 勝亮 (生物化学 新採用)
 (59. 4. 1)
 栗本 真理 (薬品化学)
 戸奈 優子 (衛生化学)
 北野 尚子 (分析化学)
 大桃 善朗 (放射薬品学 新採用)
 辻坊 裕 (微生物化学 新採用)
 清水永里子 (生化学 新採用)

副 手 発 令 (59. 4. 1)
 岩本 洋子 (薬剤学 新採用)
 斎藤友希子 (製剤学 新採用)
 伊藤 美徳 (薬品物理化学 新採用)
 谷本 美佐 (薬品製造学 新採用)
 長濱 奈津 (有機薬化学 新採用)
 上野 友子 (衛生化学 新採用)
 勝田 真弓 (薬品製造学 新採用)
 尹 康子 (薬品物理化学 新採用)
 江連 啓子 (放射化学 新採用)

課 長 発 令 (59. 4. 1)
 伊藤 美雄 (教務課長)

主 任 発 令 (59. 4. 1)
 井頭 八郎 (施設課)
 高橋 正好 (教務課)
 神田 吉秋 (学生課)

事務職員発令 (59. 1. 7)
 宮地 憲子 (庶務課 新採用)

配 置 換 発 令 (59. 4. 1)
 森本 武司 (庶務課長 教務課長より)

嘱 託 発 令 (59. 4. 1)
 平野 弘 (教授)
 小村 俊夫 (事務局長)

退 任 (59. 3. 31)
 森本 史郎 教授 図書館長
 (任期満了につき)
 森下 利明 教授 寮監
 (任期満了につき)

退 職 (58. 12. 31)
 高雄 弘 助手 (生物化学)
 柴田 恵 助手 (薬品物理化学)
 (59. 3. 31)
 杉山 和明 助手 (薬品製造学)
 加藤 高昭 助手 (微生物化学)
 佐々木将博 助手 (放射化学)
 山田 晃 助手 (放射薬品学)
 藤原 葉子 助手 (製剤学)
 勝野 孝子 助手 (有機薬化学)
 樋端 詠子 助手 (衛生化学)
 藤井 香穂 助手 (薬品物理化学)
 新田智佳子 助手 (無機薬化学)
 上田 洋子 助手 (薬剤学)
 小村 俊夫 事務局長

解 雇 (59. 3. 31)
 浅野 忠行 事務局長次長・庶務課長
 山本 あさ 用務員

海 外 留 学 (59. 3. 30~60. 8. 15)
 石田 寿昌 助教授
 留学先 Freie Universität Berlin

大 学 ご よ み

〔S58年〕
 12月17日 (土) 特別実習, 特別講義配属最終決定
 24日 (土) 後期授業終了 (4回生)
 25日 (日) 冬季休業

〔S59年〕
 1月 9日 (月) 冬季休業後授業再開 (1~3回生)
 9日 (月) 後期試験 (4回生)
 20日 (金) }
 14日 (土) 後期試験終了 (1~3回生)
 17日 (火) 後期試験 (1~3回生)
 28日 (土) }
 24日 (火) 後期追試験 (4回生)
 31日 (火) 後期追試験 (2~3回生)
 2月 2日 (木) }
 1月30日 (月) 後期再試験 (4回生)
 2月 7日 (木) }
 11日 (祝) 入学試験 (志願者数2851名)
 18日 (土) 入学試験合格者発表
 18日 (土) 卒業予定者発表-1



卒業式

- 2月20日(月) 後期再試験(1~3回生)
- 28日(火)
- 20日(月) 大学院修士論文提出
- 20日(月) 最終試験(4回生)
- 25日(土)
- 29日(水) 特別実習発表会
- 3月2日(金) 卒業予定者発表-2
- 3日(土) 第8回大学院修士論文発表会
- 15日(木) 大学院修士課程修了者発表
- 16日(金) 進級者発表(1~3回生)
- 19日(月) 第31回卒業式ならびに第8回大学院修了式(学部卒業生287名, 大学院修了生8名)

前期行事予定

- 4月3日(火) 第66回薬剤師国家試験
- 4日(水)
- 13日(金) 入学式(学部・大学院)
- 14日(土) 新入生ガイダンス, アドバイザー面談(午後より)
- 16日(月) 前期授業開始
- 19日(木) レントゲン検診-1
- 21日(土) 新入生歓迎会(学友会・卯月祭)(午後より)
- 25日(水) レントゲン検診-2
- 5月4日(金) 臨時休業
- 8日(火) 内科検診-1
- 9日(水) 創立記念日
- 14日(月) 内科検診-2
- 21日(月) 単位獲得試験
- 7月11日(水) 夏季休業
- 9月10日(月)
- 11日(火) 授業再開

- 9月17日(月) 前期授業終了
- 19日(水) 前期試験
- 28日(金)
- 29日(土) 臨時休講
- 10月1日(月) 後期授業開始
- 16日(火) 80周年記念式典(予定)

学位授与

〔博士〕

- 三野 芳紀 薬学博士(59.1.29)
「ムギネ酸-金属錯体の構造, 性質並びにイネ科植物鉄(Ⅲ)輸送体としての機能に関する研究」(京都大学より)

〔修士〕(59.3.19)

- 中島 淳二 「Desoxy podophyllotoxin から関連リグナンの合成」
- 岡村 啓史 「ラット腎不活性化型カリクレインの分離と活性化型カリクレインへの変換に関する研究」
- 宮脇 宣明 「ビタミンE欠乏ラットの腎皮質切片からのレニン遊離に関する研究」
- 堀 光彦 「腎皮質基底側細胞膜の有機弱酸および有機塩基輸送系に対するベラパミルおよびBa²⁺の作用」
- 大島 直文 「健胃生薬エキスの併用作用」
- 銭田 晃 「透析患者血液濾過物の濃縮とニンヒドリン陽性中分子量物質の分画化について」
- 田中 公和 「透析患者の中分子量物質の逆相液体クロマトグラフィー」
- 谷岡 秀敏 「ウサギ腎髄質切片におけるプロスタグランジン合成に対する脂質過酸化と抗酸化剤の影響」



入学式

教員研究業績一覽(1983年度)

1. 著書, 紀要, 総説, 解説等

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
堀田輝明, 森下利明	人間と道徳教育, 道徳教育上の諸問題, 道徳教育の変遷, 道徳性の発達	価値と欲望の人間学 (世界思想社)
望月伸三郎	フィンランドにおける体育・スポーツ事情	ヨーロッパの体育・スポーツ事情 (日本体育協会)
沼田 敦		薬科学大辞典 (広川書店)
栗原拓史	第6章 脱離 第7章 付加 第10章 有機金属試薬を用いた合成反応	エッセンシャル有機薬品合成化学 (医歯薬出版)
太田長世		薬科学大辞典 (広川書店)
森 逸男	第二章 光分析	基礎分析化学通論下巻(広川書店)
森 逸男		薬科学大辞典 (広川書店)
木村捷二郎	第Ⅳ章 放射線測定法	放射化学・放射薬品学 (南江堂)
山田 晃, 他	Tc-99m bifunctional radiopharmaceutical from a glucose derivative: a potential agent for brain studies	Technetium in Chemistry and Nuclear Medicine, 109-111(1983) (Cortinal International, Verona)
森本史郎		薬科学大辞典 (広川書店)
坂田勝治	The Dualistic Perspectives: A Note on Dangling Man (I)	ぼいでいあ, 7, 3-18(1983)
浜中久美子	le Fort の「愛」についての模索 (II)	ぼいでいあ, 7, 35-47(1983)
望月伸三郎, 新宅幸憲	薬科大学学生の体力	ぼいでいあ, 7, 61-69(1983)
森本史郎	浮腫の治療薬の薬理作用	薬局, 34, 329-334(1983)(南山堂)
森本史郎	ループ利尿薬	日本臨床, 秋季増刊, 1151-1162(1983) (日本臨床社)
石川壽昌	トリプトファンとピリジン, フラビンおよびチアミン補酵素との芳香環組相互作用の構造化学	日本結晶学会誌, 25, 157-167(1983) (日本結晶学会)
三野芳紀	ムギネ酸—鉄錯体と植物の鉄取り込み機構	化学と生物, 21, 10-11(1983) (学会出版センター)
土井 勝	ダブルベータ崩壊 (ニュートリノはディラック型かマヨラナ型か)	日本物理学会誌, 38, 450-457(1983)

2. 一般学術論文

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
土井 勝, 他	Double Beta Decay	Progress of Theoretical Physics, 69 , 602-635 (1983)
土井 勝, 他	Pseudo Dirac Neutrino	Progress of Theoretical Physics, 70 , 1331-1352(1983)
土井 勝, 他	The Energy Spectrum and the Angular Correlation in the $\beta\beta$ Decay	Progress of Theoretical Physics, 70 , 1353-1374 (1983)
有本正生, 山口秀夫, 他	Oxidation of 2-Substituted Allylsilane to Conjugated Enal Using Hypervalent Organoiodine Compound and Synthesis of α -Methylene γ -and δ -Lactones	Tetrahedron Lett., 24 , 777-780(1983)
有本正生, 山口秀夫, 他	Umpolung of Reactivity of Allylsilane, Allylgermane, and Allylstannane via Their Reaction with Thallium (III) Salt: A New Allylation Reaction for Aromatic Compounds	Chem. Pharm. Bull., 31 , 86-93 (1983)
沼田 敦, 保木本和子, 竹村鶴子, 福井澄夫	Feeding Inhibitors for the Larvae of the Yellow Butterfly, <i>Eurema hecabe mandarina</i> de L'Orza (Lepidoptera: Pieridae) in a Flowering Fern, <i>Osmunda japonica</i> THUNB	Appl. Ent. Zool., 18 , 129-131(1983)
沼田 敦, 保木本和子, 竹村鶴子, 松永春洋, 森田麗子	Plant Constituents Biologically Active to Insects. II. Juvabione Analogs from <i>Abies sachalinensis</i> MAST. (I)	Chem. Pharm. Bull., 31 , 436-442(1983)
沼田 敦, 竹村鶴子, 大林英之, 勝野孝子, 山本恭子, 他	Antifeedants for the Larvae of the Yellow Butterfly, <i>Eurema hecabe mandarina</i> , in <i>Lycoris radiata</i>	Chem. Pharm. Bull., 31 , 2146-2149(1983)
平野 弘, 杉山和明, 山下まゆみ, 井上正敏, 石田寿昌	1,3-Dipolar Cycloaddition of Thiazolium N-Phenylimides with Acrylonitrile	Chem. Pharm. Bull., 31 , 1792-1795(1983)
栗原拓史, 那須啓子, 足立泰子	Synthesis and Reactions of Ethyl 3-Acetyl-8-cyano-6,7-dimethylpyrrolo [1,2-a] pyrimidine-4-carboxylate and Related Compounds	J. Heterocyclic Chem., 20 , 81-86(1983)
栗原拓史, 那須啓子, 三原京子	Synthesis of 1,4-Dihydro-2-methyl-4-oxo-3-quinolineglyoxylic Acid and Related Compounds	J. Heterocyclic Chem., 20 , 289-293 (1983)
栗原拓史, 那須啓子, 井上正敏, 石田寿昌	Physicochemical Properties of Isomeric Azines of 3-Acetyl-4-hydroxy-2-methoxy-4-phenylcrotonic Acid Lactones	Chem. Pharm. Bull., 31 , 912-918 (1983)
栗原拓史, 太田敦稔, 林博文, 浦田秀仁, 井上正敏, 石田寿昌	Improved Synthesis of 5'-Deoxy-5'-adenosineacetic Acid	Chem. Pharm. Bull., 31 , 2126-2129 (1983)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
栗原拓史, 川寄英二, 那須啓子	Synthesis of 4 <i>H</i> -Pyrazolo [1, 5- <i>a</i>] [1, 3] diazepine	Heterocycles, 20, 1913-1916 (1983)
春沢信哉, 米田龍司, 栗原拓史, 他	Cyanophosphorylation of Ketones and Aldehydes Using Diethyl Phosphorocyanidate (DEPC)	Chem. Pharm. Bull., 31, 2932-2935 (1983)
松永春洋, 森田麗子	Hopenol-B, a Triterpene Alcohol from <i>Euphorbia supina</i>	Phytochemistry, 22, 605-606 (1983)
三野芳紀, 石田寿昌, 太田長世, 井上正敏, 他	Mugineic Acid-Iron (III) Complex and Its Struc- turally Analogous Cobalt (III) Complex: Character- ization and Implication for Absorption and Transport of Iron in Gramineous Plants	J. Am. Chem. Soc., 105, 4671-4676 (1983)
三野芳紀, 他	High-Resolution Proton Nuclear Magnetic Reso- nance Analysis of Solution Structures and Conforma- tional Properties of Mugineic Acid and Its Metal Complexes	Biochemistry, 22, 4842-4845 (1983)
小澤 貢, 松山容子, 福本雅代, 馬場きみ江	Chemical Studies of <i>Coelopleurum gmelinii</i> (D. C.) Ledeb. I. Constituents of the Root	Chem. Pharm. Bull., 31, 64-69 (1983)
小澤 貢, 福本雅代, 松山容子, 馬場きみ江	Chemical Studies on the Constituents of the Chinese Crude Drug "Quiang Huo"	Chem. Pharm. Bull., 31, 2712-2717 (1983)
木村善行, 小澤 貢, 馬場きみ江, (故) 梶 清之	New Constituents of Roots of <i>Polygonum cuspidat- um</i>	Planta Medica, 48, 164-168 (1983)
馬場きみ江, 小澤 貢, 他	Effects of Stilbene Components of Roots of Poly- gonum spp. on Liver Injury in Peroxidized Oil-fed Rats	Planta Medica, 49, 51-54 (1983)
馬場きみ江, 松山容子, 福本雅代, 小澤 貢	エゾニウの成分研究	薬学雑誌, 103, 1091-1095 (1983)
馬場きみ江, 松山容子, 福本雅代, 濱崎富美代, 小澤 貢	唐薬木の成分研究	生薬, 37, 418 (1983)
森 逸男, 藤田芳一, 北野尚子	Spectrophotometric Determination of Chlorpromazine Hydrochloride Using the Color Reaction with Palla- dium (II) and <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein	Bunseki Kagaku, 32, E1-E7 (1983)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	Spectrophotometric Determination of Isoniazid Using Formation of <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein-Palla- dium (II)-Cetyltrimethyl Ammonium Chloride Complex	Bunseki Kagaku, 32, E199-E205 (1983)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	New and Selective Spectrophotometric Determination of Streptomycin Using <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephth- alein and Manganese (II)	Chem. Pharm. Bull., 31, 1289-1295 (1983)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
森 逸男, 藤田芳一, 北野尚子	Spectrophotometric Determination of Creatinine Using <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein-Palladium (II) Complex	Chem. Pharm. Bull., 31, 1389-1391 (1983)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	The Determination of 5-Iodouracil Using the <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein-Palladium (II) Complex	Bull. Chem. Soc. Jpn., 56, 2167-2168 (1983)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	Spectrophotometric Determination of Chlorpheniramine Maleate by Complex Formation with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein, Titanium (IV) and Fluoride in the Presence of Sodium Dodecyl Sulfate	Bunseki Kagaku, 32, E327-E333 (1983)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子, 鎌田吉介	Spectrophotometric Determination of Tubocurarine Chloride Using Color Reaction with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein, Zirconium (IV) and Fluoride Ions	Bunseki Kagaku, 32, E375-E378 (1983)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	Color Reaction between Pyrogallol Red-Molybdenum (VI) Complex and Protein	Bunseki Kagaku, 32, E379-E386 (1983)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	Spectrophotometric Determination of Minocycline Using Zirconium (IV), <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Fluoride Ions in the Presence of Sodium Dodecyl Sulfate	Chem. Pharm. Bull., 31, 4016-4021 (1983)
石田寿昌, 田辺信之, 井上正敏	Structure of <i>tert</i> -Butoxycarbonylglycylglycyl-L-phenylalanine Ethyl Ester, C ₂₀ H ₂₉ N ₃ O ₆	Acta Cryst., C39, 110-112 (1983)
石田寿昌, 井上正敏, 那須啓子, 栗原拓史	Structure of Two Isomeric Azines of 3-Acetyl-4-(2-chlorophenyl)-4-hydroxy-2-methoxycrotonic Acid Lactone, C ₂₆ H ₂₂ Cl ₂ N ₂ O ₆	Acta Cryst., C39, 470-473 (1983)
柴田 恵, 香川雅子, 森坂勝昭, 石田寿昌, 井上正敏	Structure of <i>N</i> -Cyano- <i>N'</i> -methyl- <i>N''</i> -(2-[(5-methyl-1 <i>H</i> -imidazol-4-yl) methyl] thio)ethyl)guanidine (Cimetidine) Monohydrochloride Monohydrate, C ₁₀ H ₁₇ N ₆ S ⁺ Cl ⁻ ·H ₂ O	Acta Cryst., C39, 1255-1257 (1983)
石田寿昌, 山下正洋, 高井秀子, 井上正敏	Structures of 1,3-Dicyclohexyl-1-(1 <i>H</i> -indol-3-yl-acetyl) urea, C ₂₃ H ₃₁ N ₃ O ₂ (I), and 3-Cyclohexyl-1-[2-[(1 <i>H</i> -indol-3-yl)ethyl] urea, C ₁₇ H ₂₃ N ₃ O (II)	Acta Cryst., C39, 1294-1297 (1983)
石田寿昌, 山本恵造, 井上正敏	The Crystal Structure of the 1-(2-Carboxyethyl)-uracil: Phenethylamine (1:1) Complex	Bull. Chem. Soc. Jpn., 56, 955-956 (1983)
石田寿昌, 井上正敏, 他	Sesquiterpenoid Constituents of the Liverwort, <i>Ptychanthus striatus</i> (Lehm. et Lindenb.) Nees	Bull. Chem. Soc. Jpn., 56, 1125-1132 (1983)
石田寿昌, 柴田 恵, 藤井香穂, 井上正敏	Inter- and Intramolecular Stacking Interaction between Indole and Adeninium Rings	Biochemistry, 22, 3571-3581 (1983)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
石田寿昌, 宮崎 工, 井上正敏, 太田敦稔, 栗原拓史, 他	Crystallographic and ^1H Nuclear Magnetic Resonance Studies of 5'-Deoxy-5'-adenosineacetic Acid; a Model Nucleotide of Adenosine-5'-monophosphate	J. Chem. Soc. Perkin Trans. I, 1983, 1325-1331
✓ 石田寿昌, 勝田真弓, 井上正敏, 他	The Stacking Interactions in 7-Methylguanine-Tryptophan Systems, a Model Study for the Interaction between the 'Cap' Structure of mRNA and its Binding Protein	Biochem. Biophys. Res. Commun. 115, 849-854 (1983)
✓ 石田寿昌, 松井みゆき, 井上正敏, 平野 弘, 山下まゆみ, 杉山和明	Stacking Interaction of Indole Ring with Thiazolium Ring and Effect for H-D Exchange Reaction of Thiamin	Biochem. Biophys. Res. Commun., 116, 486-491 (1983)
✓ 井上正敏, 奥田 寛, 石田寿昌, 他	On the Interaction between Flavin-Adenine Rings and between Flavin-Indole Rings by X-Ray Structural Studies	Arch. Biochem. Biophys. 227, 52-70 (1983)
✓ 柴田 恵, 小久保博雅, 森本一洋, 森坂勝昭, 石田寿昌, 井上正敏	X-ray Structural Studies and Physicochemical Properties of Cimetidine Polymorphism	J. Pharm. Sci., 72, 1436-1442 (1983)
✓ 石田寿昌, 宇佐美秀子, 井上正敏	Conformational Analyses of 9-[3-(3-Indolyl)propyl]-adenine and 9-[3-(3-Indolyl)propyl]-1-methyladeninium by Empirical Energy Calculations, a Model Study for the Intramolecular Stacking Interaction of Indole Ring with Adenine Base and with N (1)-Methylated Adenine Base	Chem. Pharm. Bull., 31, 4220-4229 (1983)
山田 晃, 他	骨シンテグラフィーにおける肝臓出の一原因—コンドロイチン硫酸鉄コロイド(ブルターール)併用による影響—	核医学, 20, 1175-1181 (1983)
佐々木将博, 近藤裕一, 木村捷二郎	アミノ酸添加によって生成する海水中の ^{60}Co 有機錯体と化学分離のための前処理	Radioisotopes, 32, 234-237 (1983)
木村捷二郎, 佐々木将博, 高橋正興	自動車用窓ガラス片の鑑別への蛍光X線分析の利用の試み	科学警察研究所報告, 36, 147-155 (1983)
木村捷二郎, 西村礼子, 他	アクリノール製剤の放射線滅菌におけるアクリノールの分解	Radioisotopes, 32, 539-545 (1983)
秋山寛子, 高岡昌徳, 森本史郎, 他	Rapid Separation and Measurement of Rat Urinary Kallikrein by High-Performance Liquid Chromatography with a Continuous Flow Enzyme Detector	J. Chromatogr., 264, 249-257 (1983)
松村靖夫, 清水利勝, 大野行弘, 宮脇宣明, 森本史郎	Renin Release and Lipid Peroxidation by Ascorbic Acid in the Renin Granule Fraction of Rat Kidney Cortex	Japan. J. Pharmacol., 33, 803-810 (1983)
森本史郎, 安部りょう子	Effects of Actinomycin D and Cycloheximide on the Activities of Catalase and D-Amino Acid Oxidase in the Rat Kidney Cortex during Sodium Restriction	Chem. Pharm. Bull., 31, 2917-2919 (1983)
森本史郎, 中村憲史, 伊藤勝彦, 高岡昌徳	Molecular Characterization of Renin in Plasma and Kidney of Sodium-Restricted Rats	Chem. Pharm. Bull., 31, 3755-3758 (1983)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
森本史郎, 松村靖夫, 大野行弘, 宮脇宣明	Effects of Vitamin E Depletion and Repletion on Renin Release from Renin Granules	J. Pharm. Dyn., 6, 844-850 (1983)
森本史郎, 宮脇宣明, 松村靖夫, 大野行弘, 水谷泰久	Stimulation of Renin Release from Rat Kidney Cortical Slices by Vitamin E-Deficiency	J. Pharm. Dyn., 6, 892-895 (1983)
玄番宗一, 駒村隆司, 松島與和, 他	Cinoxacin: Competitive Inhibitory Effect on <i>p</i> -Aminohippurate Transport and its Uptake in Renal Cortical Slices	Arch. Int. Pharmacodyn. Ther., 261, 308-315 (1983)
玄番宗一, 駒村隆司, 松島與和, 他	Effect of Cinoxacin on Cellular Metabolism and <i>p</i> -Aminohippurate Transport in Kidney Cortical Slices in Terms of its Nephrotoxic Action	Toxicol. Lett., 15, 49-56 (1983)
松島與和, 玄番宗一	Dissipation by Tetraethylammonium of Verapamil-stimulated <i>p</i> -Aminohippurate Accumulation in Rat Kidney Cortical Slices	Biochem. Pharmacol., 32, 1929-1931 (1983)
玄番宗一, 川口美恵子, 小西幸子, 中西順一, 松島與和	Inhibition of <i>p</i> -Aminohippurate Transport by Cyclic GMP in Rat Kidney Cortical Slices	J. Pharm. Dyn., 6, 621-626 (1983)
玄番宗一, 村田美保, 松島與和	Stimulative Effect of Ba ²⁺ on <i>p</i> -Aminohippurate Transport in Rat Kidney Cortical Slices	J. Pharm. Dyn., 6, 760-766 (1983)
森本一洋, 神谷悦子, 武枝敏之, 中元安雄, 森坂勝昭	Enhancement of rectal absorption of insulin in polyacrylic acid aqueous gel bases containing long chain fatty acid in rats	Int. J. Pharmaceut., 14, 149-157 (1983)
森本一洋, 森坂勝昭, 他	角膜の Short-circuit current に及ぼす Callopeptide の影響	眼科臨床医報, 77, 255-258 (1983)
森本一洋, 吉川義三, 森坂勝昭, 他	新しい角膜保存液の開発	日本眼科紀要, 34, 1641-1649 (1983)
神谷悦子, 森本一洋, 武枝敏之, 中元安雄, 森坂勝昭	Rectal absorption of flurbiprofen, ketoprofen and indomethacin in polyacrylic acid aqueous gel preparation in rats	Int. J. Pharmaceut., 17, 273-281 (1983)
中元安雄, 武枝敏之, 神谷悦子, 森本一洋, 安田正秀, 森坂勝昭, 他	Enhancement of Lymphatic Transport of 1-(2-Tetrahydrofuryl)-5-fluorouracil by Polyacrylic Acid Aqueous Gel and Emulsion Type Suppositories in Rats	J. Pharm. Dyn., 6, 637-642 (1983)
安田正秀, 武枝敏之, 中元安雄, 森坂勝昭, 他	Effect of Dietary Calcium on Growth, Calcium, Magnesium and Phosphorus Contents and Fatty Acid Composition of Individual Tissues in Rats	Chem. Pharm. Bull., 31, 4152-4156 (1983)
酒井 清, 藤原葉子, 西野隆雄, 松浦多美子, 西浦昭雄	糖尿病態時の胃液分泌動態におよぼす抗コリン薬の挙動	薬学雑誌, 103, 319-325 (1983)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
酒井 清, 藤原葉子, 西野隆雄, 松浦多美子	経口糖尿病薬の胃液分泌動態におよぼす抗コリン薬の 影響	薬学雑誌, 103, 326-335 (1983)
酒井 清, 西浦昭雄, 藤原葉子, 忽那多美子, 西野隆雄	Salivary Excretion of Warfarin in Rabbits: Relation- ship between Pharmacological Effect and Salivary Pharmacokinetics of Warfarin in Rabbits	J. Pharm. Dyn., 6, 991-999 (1983)
加藤喜昭, 久保真百合, 森坂勝昭, 稲森善彦, 他	The Mechanisms of Delayed Insecticidal Action of Streptothricin Antibiotics. II. Effect of Racemomycin- D on Excretion Function of the 5th Instar Larvae of Silkworm, Bombyx mori Linne	Chem. Pharm. Bull., 31, 305-311 (1983)
久保真百合, 加藤喜昭, 森坂勝昭, 稲森善彦, 他	The Mechanisms of Delayed Insecticidal Action of Streptothricin Antibiotics. I. Toxic Symptoms and Distribution of Racemomycin-D into the Tissues of the 5th Instar Larvae of Silkworm, Bombyx mori Linne	Chem. Pharm. Bull., 31, 325-329 (1983)
稲森善彦, 加藤喜昭, 久保真百合, 馬場きみ江, 松山容子, 小澤 貢, 他	Mechanisms of Insecticidal Action of Deoxypodo- phyllotoxin (Anthricin). I. Distribution of Deoxypodo- phyllotoxin in Tissues of the 5th Instar Larvae of Silkworm, Bombyx mori Linne	Chem. Pharm. Bull., 31, 4464-4468 (1983)
稲森善彦, 加藤喜昭, 久保真百合, 他	Studies on Metabolites Produced by Aspergillus terreus var. aureus. I. Chemical Structures and Antimicrobial Activities of Metabolites Isolated from Culture Broth	Chem. Pharm. Bull., 31, 4543-4548 (1983)
藤本陽子, 谷 岡秀敏, 芥子邦代, 藤田 直	The interaction between lipid peroxidation and prostaglandin synthesis in rabbit kidney-medulla slices	Biochem. J., 212, 167-171 (1983)
樋端詠子, 大西良二, 藤本陽子, 藤田 直	Effect of Mercurials on Lipid Peroxidation in Rabbit Renal Cortical Mitochondria	Japan J. Pharmacol., 33, 1279-1281 (1983)
藤田 直, 藤本陽子	薬物による脂質過酸化の誘導	医学のあゆみ, 127, 261~266 (1983)